

2025年度
みやこ
京カレッジ

京都力養成コース 京都学講座

『あなたの知らない京都旅』

●受講料

10,000円(基本講座10回)

※実地講座1・2の応募方法は受講確定後に受講生に改めて案内いたします。

※大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全科履修生は基本講座の受講料を無料とします。学生証のコピーを出願の際にご提出ください。

●定員

「午前コース」「午後コース」とともに各200名

※どちらも同じ講座内容です。どちらかのコースを選んで出願してください。各コースとも出願が定員を超過した場合は抽選で受講生を決定します。出願後にコースを変更することはできません。予めご了承ください。

●出願方法

「京カレッジ募集ガイド」をご確認いただき、WEBにてご出願ください。

【単位互換・京カレッジポータルサイト】

<https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

過去に出願登録のある方も、「初めての方はこちら」から利用者登録をしてください。

※WEBでの出願は、講座名等を画面上から選択するだけの簡単な仕様です。ぜひご利用ください。

※WEBのご利用が難しい場合は、郵送・持参での出願も可能です。



募集ガイドの入手または請求方法

■募集ガイド請求フォームより資料請求

スマートフォンのカメラ等で
こちらを読み取りお申し込みください。



■3月初旬より下記の配架先でも入手できます。

キャンパスプラザ京都、京都市役所、区役所、支所、京都市の図書館等

■直接お問合せ

郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・電話番号を明記の上、ご請求ください。

メール miyakare@consortium.or.jp

FAX 075-353-9121

※ご提供いただいた個人情報は「京カレッジ」に関する運営のみに使用いたします。

出願受付期間

●WEB 3/1(土)～3/14(金) 23時59分まで

●郵送 3/1(土)～3/14(金) 必着

●持参 3/13(木)・3/14(金) 10時00分～16時00分

キャンパスプラザ京都1階で受付

【注記】 受講可否は4月上旬までに通知いたします。ご入金いただいた受講料・参加費はいかなる理由でも返金いたしかねます。予めご了承ください。

無料

大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生は
基本講座のスポット受講が可能(1回単位で受講可能)です

希望する講座(開講記念講座・実地講座以外)の日時に直接会場へお越しいただき、受付で学生証を提示してください(会場の定員を満たした場合は、受講をお断りさせていただくことがあります)。

※「加盟校正規学生」とは大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全科履修生です。

■お問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 京カレッジ担当
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内

TEL:075-353-9140 FAX:075-353-9121

【お問合せ受付時間】 火～土曜 9:00～17:00

<https://www.consortium.or.jp/>

京カレッジ

検索



単位互換・京カレッジ Instagram



発行:京都市総合企画局総合政策室

京都市印刷物 第065002号 令和7年2月

※この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ

みやこ
京カレッジ

2025年度 京カレッジ

京都力養成コース 京都学講座

あなたの知らない京都旅

—昭和100年の物語—



2025(令和7)年は、昭和100年にあたります。1926年に大正から昭和へ元号が変わり、1928(昭和3)年には京都御所で昭和天皇の即位式(御大典)が執り行われました。1935(昭和10)年の大水害や1945(昭和20)年の空襲など、京都も大きな災害にみまわれました。日本で最初の市電やきらびやかな祇園祭も、昭和とともに変化を遂げてきました。古来の伝統だけでなく、戦後の京都は「学都」として、独自の新しい文化・芸術も創造してきました。

みなさんと一緒に京都の1世紀を振り返るとともに、次世紀の京都のあり方を考えてみましょう。

期間 2025

4/26(土)～12/13(土)

土曜日開講

定員
各200名

時間

【午前コース】10:00～11:30(受付開始 9:30)

【午後コース】13:00～14:30(受付開始 12:30)

※午前か午後、どちらかを選んで受講いただけます。

各コースとも講座内容は同じです。

会場

キャンパスプラザ京都(4階 第2講義室)



みやこ

京カレッジについて

「京(みやこ)カレッジ」では、大学の講義が受講できるほか、「市民教養講座」といった大学の生涯学習講座などを提供しています。詳しくは「京カレッジ生募集ガイド」または京カレッジホームページをご覧ください。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

詳細は中面を
ご覧ください!



基本講座10回 ※午前・午後ともに同じ内容です。
【午前コース】10:00～11:30 【午後コース】13:00～14:30
※講座の内容は都合により一部変更することがあります。※実地講座は別途参加申込と参加費が必要です。

第1回 4/26(土)

昭和大礼と京都
—大正から昭和へ—

秋元 せき 氏 (京都市歴史資料館 主任歴史調査員)



大正15年(1926年)12月25日に大正天皇が崩御すると、皇太子裕仁親王が踐祚し、元号を「昭和」と改めました。その後、約1年間の諒闇(喪中)の期間を経て、昭和3年(1928年)に、京都で即位礼(御大礼)を初めとする一連の儀式が行われました。大正から昭和への代替わりに際して、即位礼と大嘗祭・大饗の宴は、京都という都市の社会・文化・景観に何をもたらしたのでしょうか。その時代背景とともに、観光都市京都につながる意味を考えます。

第2回 5/17(土)

昭和10年京都大水害と鴨川改修

植村 善博 氏 (佛光大学 名誉教授)



昭和9年(1934年)の室戸台風被災の翌年、梅雨による大雨で鴨川や天神川、御室川などが氾濫、京都市域の3分の1、約4.3万戸が浸水し大きな被害を生じました。しかし、翌昭和11年(1936年)4月には国の補助による鴨川改修起工式がおこなわれ、千年の治水方針で大規模改修事業が開始されました。この結果、今日の鴨川治水と景観が完成しました。講義では水害の発生要因と被害の実態、鴨川改修計画と実施にいたる経緯を紹介します。

第3回 6/21(土)

京都の戦争
—軍都、戦争協力、疎開—

原田 敬一 氏 (佛光大学 歴史学部 名誉教授)



京都は戦争の被害を免れた稀な都市だといわれます。しかし、京都市内でも西陣など空襲被害はあるし、京都府下では舞鶴や宮津など「北部空襲」もありました。原爆の投下予定都市リストには京都市が含まれていたのです。伏見区には第16師団が駐屯し、陸軍病院や補給拠点もあり、精華町には東洋一といわれた巨大な弾薬庫もありました。宗教界も無縁ではなく、「武運長久」を祈る庶民だけではなく、仏教界も神道界も、日清戦争以来兵士を鼓舞する役割を積極的に担いました。京都の都市構造も、空襲対策の建物疎開で大きく変わりました。そうした隠された戦争を、座学とフィールドワークでたどってみましょう。

第4回 6/28(土)

二十歳の原点・高野悦子とその時代
—マイルストーン(里程標)としての1969年—

天野 博 氏 (アールエスティ株式会社代表取締役)
川島 智生 氏 (神戸情報大学院大学 客員教授)



昭和44年(1969年)は、全国各地で学生運動がピークに達し、京都の大学も多くが封鎖され、戦後民主主義の旗手・立命館大学も渦中にありました。そのなかで、立命館大生・高野悦子が鉄道自殺をはかりました。時代の波にもまれた感と謎めいた死により、高野悦子が残した日記「二十歳の原点」は、同世代をはじめ広く共感を呼び、空前のベストセラーとなりました。同時代を立命館大生として生きた天野博が時代の雰囲気や高野悦子の見た風景を語り、川島智生が歴史的な検証を行います。

第5回 7/5(土)

昭和初期の祇園祭
—戦前・戦中期の山鉾町の様子を中心に—

奥田 以在 氏 (同志社大学経済学部 教授)



第二次世界大戦は、祇園祭にも多大な影響を与えました。この危機に際して、祇園祭を守ってきた人々はどのように向きあったのでしょうか。祇園祭を支えてきた京都の人々の努力について、具体的な例を示しながら、理解を深めたいと考えています。また、その際に、前提となる「町」という京都の伝統的な地域住民組織についても理解を深めていきたいと考えています。

第6回 9/27(土)

京都タワーと設計者・山田守
—京都タワーにこめられた設計意図と魅力をさぐる—

Y田 Y子 氏 (漫画エッセイスト)
川島 智生 氏 (神戸情報大学院大学 客員教授)



昭和39年(1964年)、駅前に出現した京都タワーは「東寺より高いものは建てない」慣わしの京都に景観競争を巻き起こしました。しかし時が経つにつれ、古都を照らす燭台になぞらえられる等、郷愁を誘うランドマークとして、人の心に受け入れられていきました。設計した山田守は、芸術性と機能性の両立に、生涯心を砕いた建築家。京都タワーに込められた意図や魅力を、山田守の人生を関係者から聞き取り、漫画で描く孫とともに読み解きます。

第7回 10/4(土)

京都国立近代美術館の歩みと役割
—開催された展覧会をたどりながら—

岩城 見一 氏 (きょうと視覚文化振興財団理事長/京都大学名誉教授/京都国立近代美術館元館長)



京都国立近代美術館は、昭和38年(1963年)に国立近代美術館(現東京国立近代美術館)分館として創設され、昭和42年(1967年)に京都国立近代美術館として独立しました。それ以来関西地方、特に京都の伝統を新たな形で継承し発展してきた工芸や日本画の収集、研究、展示を中心に、東西の現代芸術、デザイン、ファッション分野の研究、展示にも視野を広げ、今日まで活動を続けてきました。2023年は創立50周年を迎え、これまでの活動を振り返る特別展を開催しました。このような美術館の歩みをたどりながら、本館の京都における役割とそのための諸活動の姿を写真とともに話したいと思います。

第8回 11/15(土)

近代京都の市街地形成と京都市電
—新たな「碁盤の目」の成立—

大菅 直 氏 (京都市電関係資料調査会 調査員/株式会社光影堂 代表取締役)



京都の街は「平安京以来の碁盤の目」とイメージされますが、現在の市街地を支える骨格は、明治末期の「京都市三大事業」と、大正時代以後に展開された都市計画事業によるところが大きいです。その中心には、約70年にわたって体系的な交通機関として存在した「京都市電」がありました。この講義では、京都の発展に大きな役割を果たしたこれらの事業を振り返り、その発想に学ぶことで、今後の京都のまちづくりを考える機会とします。

第9回 11/29(土)

京都の喫茶店 街の憩いの100年史
—古都に息づくコーヒーの系譜—

田中 慶一 氏 (フリーランスライター/編集者)



幸いにして戦災を免れた京都は、戦前から続く老舗から最先端の一軒に至るまで、喫茶店の変遷をたどれる全国でも稀有な街です。今も街の随所で新旧の店が個性を発揮し、独自の喫茶文化を醸成しています。ここ10年、コーヒー消費量全国一の座を占めています。一見、古都のイメージに相反する、舶来の食文化としてもたらされた喫茶店・コーヒーは、いかにして街に欠かせぬ存在になったのでしょうか。連綿とつながる系譜から「街の憩いの物語」をたどります。

第10回 12/13(土)

マリオはなぜジャンプするのか
—日本のコンテンツ循環における型と動—

細井 浩一 氏 (ZEN大学 知能情報社会学部 教授・コンテンツ産業史アーカイブ研究センター 所長)



世界のゲーム産業は、ポップ・ステップを米国が先導し、任天堂に代表される日本がジャンプを担ったと言われています。その跳躍の最初期に世界でヒットしたゲームキャラクターがマリオです。それでは、そのマリオはなぜ大ヒットしたのか、そしてなぜ京都の会社がそれを生み出すことができたのでしょうか。この疑問を考えるためには、古くから京都を中心にしてつづ発展してきた表現文化や芸能の歴史、そこにおけるコンテンツ循環ともいえる型や動の円環を理解することから始めなければならないのです。

参加費必要 別途申込

実地講座 6/7(土) 定員 各30名
1 午前コース/10:00~11:30 午後コース/13:00~14:30

京焼・清水焼の近現代と五条坂
—戦中の窯業産地と陶器製手榴弾—

木立 雅朗 氏 (立命館大学 文学部 教授)



京焼・清水焼の伝統的産地・五条坂は、焼き物問屋が集まり多様な焼き物が扱われています。雅で高級な焼き物が多いのですが、終戦間際には軍からの注文に応じ、ロケット燃料生成装置や陶器製手榴弾も焼かれました。また、昭和20年(1945年)の春、突然に建物疎開の命令が下され、防火地帯を作るために、多くの町屋が強制的に撤去されました。戦争に翻弄された窯業産地の実態を紹介します。

実地講座 11/8(土) 定員 各30名

2 午前コース/10:00~11:30 午後コース/13:00~14:30

軍都京都の足跡をたどる
—伏見の戦争遺跡—

原田 敬一 氏 (佛光大学 歴史学部 名誉教授)
笹部 昌利 氏 (京都産業大学 文化学部 准教授)



京都には第16師団が駐屯し、さまざまな部隊が施設と兵員を要していました。市民社会も受け入れ、寺社の門前町の様な隣町を形成していたのです。昭和20年(1945年)の敗戦後、多くは建て直されたり、模様替えなどをして、地域に存在し続けました。戦争遺跡というダークツーリズムの一つの焦点を、現場で考えてみたいと思います。

※実地講座は別途参加申込が必要となります。(改めてご案内いたします)
※申込多数の場合は抽選となります。